



茨城県北地域を歩く旅でひとつなぎ

全長約350km

「常陸国ロングトレイル」が切り拓く 地域活性化の新たな道

和田 幾久郎 プロジェクト代表に聞く

茨城県北部の6市町（日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町）にまたがる「常陸国ロングトレイル」が、2026年の全線開通を目指して整備・延伸中です。完成すると全長約350km。6市町に点在する景勝地、里山、歴史的遺構、古くからの街並みなど、魅力あるいくつもの地域資源をひと繋ぎにして、里山文化を体験できるロングトレイルです。

「常陸国ロングトレイル」の構想から約10年。2019年に県の事業となり本格的な整備が始まってからは、ボランティアとともにコース整備にも汗を流すプロジェクトの代表・和田幾久郎さまに、その魅力や今後の展望などについて伺いました。

（聞き手：弊社社長 大森 範久）

県北地域にロングトレイルを整備すれば 地域振興のコンテンツになると確信

—「常陸国ロングトレイル」に取り組むことになった経緯を教えてください。

今から10年以上前に遡ります。県北地域の振興を目的としたアウトドアイベントをお手伝いする機会がありました。県としては、茨城県の豊かな自然環境や地域資源の発信を通じて、国内外の観光客の誘致や持続可能な地域経済の活性化を図ろうと考えていました。

しかし、こうした一過性のイベントでは県北独自の魅力を伝えられないんじゃないか、地域振興に繋げるのは難しいんじゃないか、と感じたんです。

その頃私は、トレイルラン(未舗装の林道、登山道など、さまざまな地形や環境を走るスポーツ)に一生懸命で、昼夜を問わずに長い距離を走るような練習をしていたんです。その時、いつも見慣れた場所が違って見えた。里から里を巡る長い旅をしてきたような感動があったんです。「ああ、これだ」と。県北エリアを周遊するルートを整備して、多くの人が体験できるようにすれば、地域振興のコンテンツになる。旅的要素を磨き上げていけば、面白いものになるはずだと。それがロングトレイル構想の始まりです。

— コースの選定や整備はどのように対応されたのでしょうか？

まず1年は県北地域のあらゆるところを歩いてコースを引き、翌年から整備を始めました。

コースは、けもの道をちょっと大きくしたぐらいの方が冒険心が掻き立てられて楽しいですよ。

整備は、ボランティアの「常陸国トレイルクラブ」がやっています。クラブのメンバーは約900人で、活動は月1、2回のペース。1回の参加人数は20～30人で活動しています。

トレイルは歩くのも楽しいですが、整備の方がより得るものが大きいと言えるかもしれません。鬱蒼とした藪を切り拓いて道を作り、地元の人たちとの交流を通じて小さな感動をたくさん味わうことができる。ボランティアに参加する人たちは、もともと社会貢献意識が高い人が多いですから、トレイルを通じた環境保全にも理解が深い。里山の自然を守り、受け継いでいくことにも、やりがいを感じていると思います。

「常陸国トレイルクラブ」は随時メンバーを募集していますので、興味のある方はぜひHPからエントリーしてください。

— 自分たちが作ったルートだと愛着が湧いて、友人知人に勧める方も多いでしょうから、それがPRにもなりますね。

Profile

和田 幾久郎（わだ いくお）

水戸市出身。
常陸国ロングトレイルプロジェクト代表
高校の時にアメリカのシアトルに留学し、自然に対する考え方に大きな影響を受ける。大学時代はバックパッカーとしてアメリカを中心に旅をする。
大学卒業後、総合商社のトーメン（現豊田通商）勤務を経て家業である祐月に入社し、ナムチェバザールを開業。2019年から常陸国ロングトレイルプロジェクトを県と共に始める。

【現在の主な役職等】

株式会社 祐月本店 代表取締役
株式会社 ナムチェバザール 代表取締役
株式会社 アクアクララ水戸 代表取締役
特定非営利活動法人 WaterDoors 理事長
水戸商工会議所 副会長
一般社団法人 水戸観光コンベンション協会 副会長



コース整備の作業風景



「常陸国トレイルクラブ」のメンバー

里と山を繋ぐように歩き 日常の中の非日常を体験することで、感動に出会える

— ロングトレイルを整備することによる、効果は出ていますか？

現在の年間利用者は約10万人で、この事業を始める前の10倍になった所もあります。これはまさしく地域振興面においても大きな成果です。例えば大子町の生瀬富士は、HPやSNSで「茨城のジャングルム※」と紹介され、一躍人気のスポットになりました。

「常陸国ロングトレイル」では、里と山を繋ぐように歩くことで、日常の中の非日常を体験し、感動に出会えます。ロングトレイルとは、里山の生活や文化を感じる旅とも言えます。山、川、滝、海といった自然はもちろん、里山に暮らす人々の営み、古くからの伝説、神社仏閣や城跡・遺跡などが点在する歴史。そういった多彩な魅力に触れ、体験し、楽しんでもらえると思います。

地元の人は「ここには何も無い」と言うけれど、それは気づいていないだけなんです。外から注目されることは、地元の再発見にも繋がると思います。

※飛騨山脈の穂高連峰と奥穂高岳の西南西にあるドーム型の岩稜。尾根上の通行の邪魔をする岩の意

— コース整備は85%ぐらいまで進んでいるそうですが、今後、どんな展開を考えていますか？

今、旅には「心を動かす体験」が求められていて、特に海外の観光客にその傾向が強い。「常陸国ロングトレイル」を国際的に知ってもらえたら、まだまだ来訪者は増えますよ。それだけの価値があると思っています。やりたいことは、まだまだある。これからもっともっと面白くなりますよ。

●茨城県政策企画部 県北振興局からのコメント

茨城県北地域は、豊かな自然環境や里山文化、歴史資源など、多様で質の高い地域資源を有しています。県では、県北振興の指針「チャレンジプランNEXT」に基づき、地域の特性や強みを最大限に活かしながら、「活力があり、持続可能な地域」の実現に向けた取組を展開していますが、交流人口の拡大を図る「にぎわいづくり」の中核として整備を進めているのが、総延長350kmを目指す「常陸国ロングトレイル」です。

常陸国ロングトレイルは、県北6市町を「一本の道」で結ぶ周遊型観光コンテンツであり、海・山・川・滝などの景勝地や歴史的遺構、里山、集落を巡りながら、四季折々の自然の表情や豊かな食、地域に受け継がれてきた暮らしの営みに触れることができます。近年では、年間利用者が約10万人規模に達するなど、地域の魅力や日本の原風景を体感できるトレイルとして注目が高まっています。

長い距離を歩くだけでなく、駅や駐車場から気軽に楽しめる区間も多く、日帰りから宿泊まで、自分のペースで楽しめるのも魅力ですので、ぜひ公式サイトをご覧ください。歩くことで出会う風景や人との交流は、訪れる方にとって忘れがたい体験となり、県北地域ならではの魅力を実感いただけるはずです。

常陸国ロングトレイル
公式サイトはこちら▼



常陸国ロングトレイル
特設サイトはこちら▼



常陸国ロングトレイル
Instagramはこちら▼



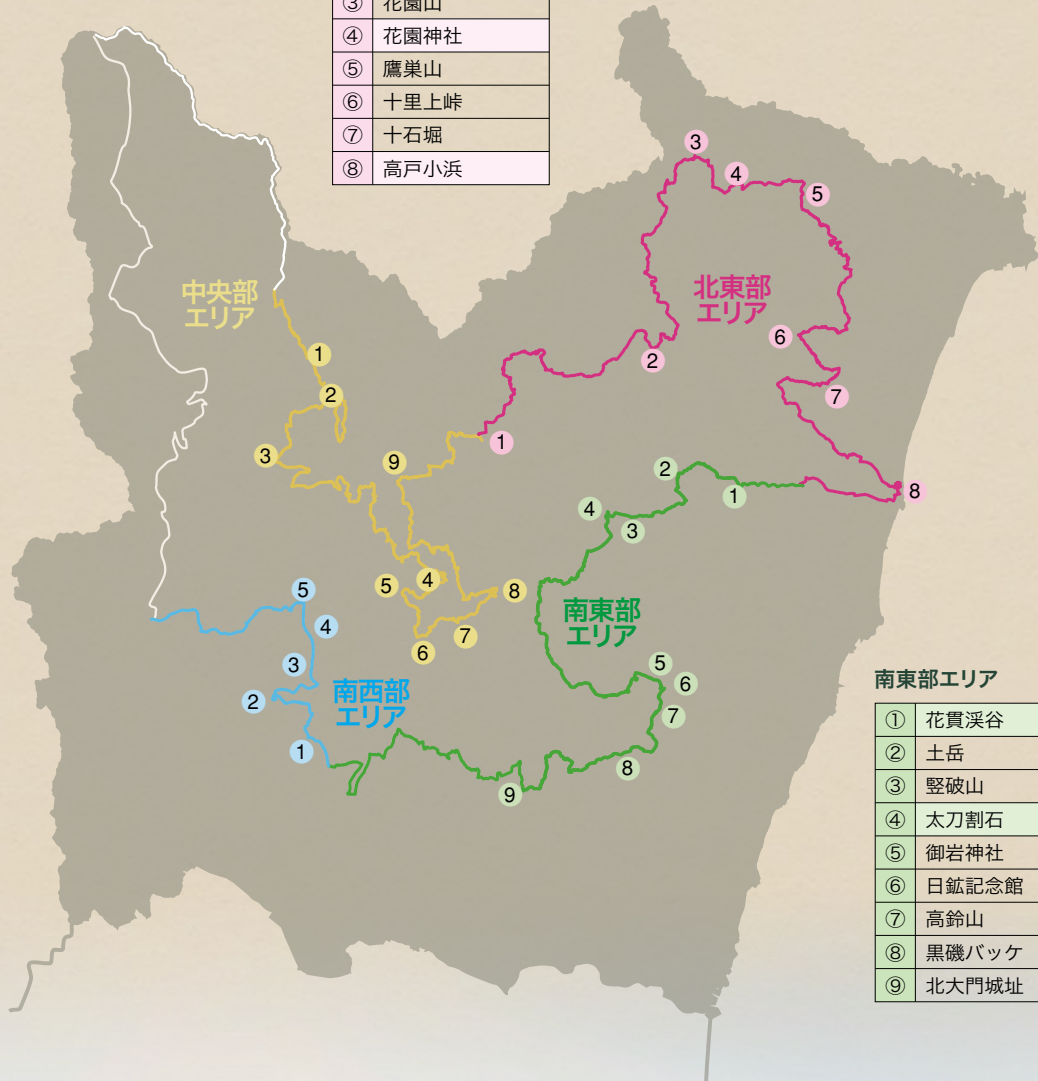
常陸国ロングトレイルエリアマップ

北東部エリア

①	塩の道
②	滝山溪谷
③	花園山
④	花園神社
⑤	鷹巣山
⑥	十里上峠
⑦	十石堀
⑧	高戸小浜

中央部エリア

①	生瀬富士
②	袋田の滝
③	鷲の巣山
④	竜神大吊橋
⑤	おかめ岩
⑥	西金砂神社
⑦	天下野宿
⑧	東金砂山
⑨	鍋足山



南西部エリア

①	野上原駅
②	陰陽山・陰陽神社
③	御城展望台
④	中舟生駅
⑤	盛金富士

南東部エリア

①	花貫溪谷
②	土岳
③	豎破山
④	太刀割石
⑤	御岩神社
⑥	日鉦記念館
⑦	高鈴山
⑧	黒磯バツケ
⑨	北大門城址

奥久慈男体山



中央部エリア

開通済みのルートは八溝山系に位置し、歩きごたえ、見ごたえたっぷりの健脚向きコースです。特産のこんにやく、奥久慈りんご、奥久慈しゃも、常陸秋そばなど、食の恵みも豊かです。



袋田の滝



竜神大吊橋

南西部エリア

旧街道・南郷街道をなぞる部分が多くあり、かつての宿や市、集落など、古い街道の名残を探しながら歩く楽しみもあります。



陰陽神社



御城展望台

北東部エリア

茨城県内単独最高峰の栄蔵室や花園山などの山々から、高戸小浜、ささき浜などの海岸線まで、多彩な魅力あふれるコースです。



花園神社



高戸小浜海岸

南東部エリア

歴史のある城跡、田舎道、パワースポット、奇岩群、山頂からの眺望など、さまざまな楽しみがあるコースです。



花貫溪谷・汐見滝吊り橋(秋)



豎破山・太刀割石